

2022年度第2回 開志専門職大学情報学部 教育課程連携協議会 議事録

1. 日 時 2023年3月16日(木) 14:00~16:00
2. 会 場 米山キャンパス 開志未来創造研究センター
3. 出席者 三上委員長、田代副委員長、木田委員、黒田委員、中野委員
原田委員、山田委員、高嶋(オブザーバー)、堀川(オブザーバー)
淡路学務課・社会連携推進課課長、宮本社会連携推進課員
欠席者 箕打委員
4. 会次第
 - 1) 開会の挨拶 三上委員長
 - 2) 出席者挨拶(近況ご紹介)

座席の反時計回りに原田委員から順次近況報告をおこなった
なお山田委員は今回が初めての対面出席のため自己紹介含めて近況報告をおこなった
 - 3) 前回議事録の確認
三上委員長より、委員全員に内容確認がおこなわれた
 - 4) 情報学部について
 - (1) 成績について
事務局淡路より、資料5に基づき情報学部の2022度の全学生213名(1~3年生)の成績について説明がされた
累計GPAの分布図は、情報系に大変興味があり積極的に学習等に取り組む群と情報学部にながら情報に関心が低く何となく在籍している群の2つの山に分かれるのではないかと考えていたが予想に反して正規分布の形になった
 - (2) 退学について
事務局淡路より、資料6に基づき2022年度情報学部の退学について説明がされた
220名のうち退学者は12名(1年5名、2年4名、3年3名)5.4%。一般的な大学の退学率は4%前後のため、少し多い数字になっている。特徴として、情報系の学部はしっかりと勉強をしなくてはならないが1年やってみて学業についていけないや合わないという理由から進路変更をした学生が1年生に多かった。また精神疾患や精神的な理由のための退学が増えている傾向であり、今後どのようにフォローするべきか検討が必要である。
●黒田委員：他の専門職大学の状況はどうか？
→退学の状況は文部科学省に報告する事項のため、年度を跨ぐと他の大学の情報を知ることができる。後ほど確認する(事務局淡路)

(3) 募集について

事務局淡路より、資料 7 に基づき情報学部の 2023 年度入試状況について説明がされた

募集人員 75 名に対し志願者数 80 名 1.07 倍であったが不合格者が多く、入学見込者数は 49 名。1 期生 80 名、2 期生 72 名、3 期生 80 名の入学者だったが今年度の募集は奮っていない状況

(4) 臨地実務実習について

事務局淡路より、資料 8 に基づき臨地実務実習 I 及び II の状況について説明がされた

臨地実務実習 I (2 年次 150 時間) 27 社、臨地実務実習 II (3 年次 450 時間) 28 社、合計 45 社 (※うち 10 社は I・II 受入れ) で実施。今回の実習の特徴として「有償」での実習ができたこと、公的機関 (新潟市、佐渡市、新潟大学病院) での受け入れがあげられる。臨地実務実習 I (27 社中) 1 社、臨地実務実習 II (28 社中) で 3 社が有償。有期労働契約を締結し時給ベースで働いた分が支給される。海外等のデュアルシステムを導入している大学では有償型が一般的だと聞いている。今後は日本でも増えてくることが予想される

(5) 就職について

事務局淡路より、資料 10 に基づき現在の就職状況について説明がされた

3 年生後期 (第 3・4 期) が全て臨地実務実習のため、十分な就職活動ができるか懸念されたが現時点で内定率 25% (うち臨地実務実習先企業 3 社) であり臨地実務実習による影響はさほどなかった

●三上委員長：

離職率 (入社後 0 年) は今後リサーチしていくことになるが、600 時間の臨地実務実習は入社後力になってくれると思う

●黒田委員：

弊社の採用試験を受けに来る学生は情報系大学の学生がほとんどだが試験をしてみると適正に合格ラインに達している人が少ない。ここ数年学生の力が落ちている。面接していると具体的にやりたいことを伝えてくれる受験生が少ない

●木田委員：

インターンシップでどのような学生なのか様子を見て採用したいと考えている。離職率のことを考えるとインターンシップである程度マッチング (企業側・学生側双方) が考えられるので実習先で就職してくれるのが望ましい。東京の方では時給 1,200 円くらいの有償でインターンシップをやっている企業が増えてきている。就活は早め早めがよいと思う

→就活は早めに動くのがよいことは理解しているが、臨地実務実習が 9 月末

～1月末までなので厳しい状況（三上委員長）

●中野委員：

臨地実務実習の実習先企業は将来就職したい企業で選んでいるのか？

→実習先の希望調査は3年生の前期のため、まだそこまで考えている人は少ない（事務局淡路）

5) 委員により事例紹介

養成する人材像に関連し、委員の皆様より事例やトピックスなどの紹介

●木田委員：

・現カリキュラムでコースについては選択制になっているが、4つのコースの内容は全て必要な学びなので選択にせず「必修」としてはどうか？

・キャリアデザインを1年生から導入しては？1年次から続けていくことでオリジナルの人材を育成することが可能なのでは

●山田委員：

ある程度のレベルはオーサライズし、とんがった部分（自分の好きな分野の追求）を伸ばすようにする。例えその企業の求めているものと違っていても学生時代にとんがった部分を追求した学生は社会でも通用する

●黒田委員：

3年生の臨地実務実習の前（春・秋）に自分のキャリア設計を考えさせる機会をもたせ、臨地実務実習中に企業内での実習を通し職業理解や社会をみてもらい、自分の適性や社会が求めている人材について考えさせる

●中野委員：

完成年度以後は毎年アップデートできるので走りながらその時の状況に合わせて変えていく。新潟大学ではシラバスを担当者以外の人に定期的にチェックしてもらっている

●原田委員：

熱量を発生させるようなことをさせる。正課外の活動として「ワークショップ」等。社会に出るとコミュニティマネジメントが大事になる

6) 情報学部カリキュラム改定について

事務局淡路より、資料11～21に基づき情報学部のカリキュラム改定について現在の状況について説明がされた

資料12より、情報学部の目的と学位授与の方針については変更せず具体的手段であるカリキュラムを変更していくということが今回のカリキュラム改定の大きなポイント

(1) 養成する人材像について

1. 新カリキュラムのコンセプト

①実践から入門して好奇心・関心を高める、②多くの選択肢を提供し、プロフェッショナル・スペシャリストを育成する、③少人数ゼミによる丁寧な指導、④臨地実

務実習（大学だけでなく企業からも社会からも学ぶ）

2. 新カリキュラムと現カリキュラムの比較

・合計単位数はほぼ同じだが必修科目の単位数を大きく変えた。現行カリキュラムは必修科目 116 単位、卒業に必要な単位数が 130 単位と負担が大きかったため、新カリキュラムでは必修カリキュラムを 92 単位と減し選択科目を 67 単位から 88 単位に増やした

(2) コースについて

資料 14、15 に基づき現カリキュラムと新カリキュラムを比較しながら説明がされた

現カリキュラムは 4 つのコース、①サイバーセキュリティコース、②クラウドコース、③IOT ロボティクスコース、④AI・データサイエンスコースを軸に構成。新カリキュラムは現行 4 コースは残し新たな必要分野（メタバース、web3.0 等）コースも議論されたが現コンセプトのまますすめていく

(3) コンセプト①実践から入門して、好奇心・関心を高める

資料 16 に基づき新カリキュラムの授業形態について説明がされた

現カリキュラムの講義の形態は文科省の指導（推奨）により、理論→演習→実習であるが情報学部の学びとしてマッチしていないため、新カリキュラムでは初年度から演習科目をいれ、実際にやってみてから理論科目で知識をいれるように検討中

(5) コンセプト③少人数ゼミによる丁寧な指導

資料 19 に基づき基礎ゼミ（初年度ゼミ）について説明がされた

現在初年度ゼミがなにもない状況だが、入学者に対して丁寧に大学に関する導入ゼミをいれた方がよいとの学長からの意見や他大学の事例より、1 年次に年間を通してゼミ（基礎ゼミ）を導入する

目的としては、学習の動機づけや大学生活への適応、大学で必要な学習方法・技術の会得など

以上